

あいざわ圭一郎の地域だより

あい ざわ

埼玉県議会議員

逢澤圭一郎

発行:埼玉県議会自由民主党議員団

2020年 Vol.40

県政報告

逢澤圭一郎

県政調査事務所

三郷市早稲田2-8-5-101

TEL 048-949-6901

FAX 048-949-6902



県議会9月定例会報告

新型コロナウイルス専用仮設病棟の整備に着手

一般会計補正予算

【第7号】 **877億4,996万2千円**

【第8号】 **21億3,961万1千円**

【第9号】 **414億7,054万5千円**

県議会9月定例会は9月24日に開会し、一般会計補正予算【第7号】【第8号】【第9号】などを議決し10月14日に閉会しました。(一般会計補正予算累計 2兆3,083億9,014万4千円)

新型コロナウイルスの感染が警戒を要するレベルで続く中、補正予算【第7号】では専用医療施設の整備をはじめとする入院医療機関の体制強化のため、690億9,323万3千円の計上を決めました。具体的には、新型コロナウイルス感染患者専用の仮設病棟を運営する医療機関を公募し、その医療機関の敷地内や隣接地にプレハブを建て、約320床を確保していく計画です。また、入院医療機関への支援はもとより、人工呼吸器やECMO(エクモ)等の設備整備への支援もさらに強化していきます。

その他、県内景気が急速に悪化していることから、経済活動の回復と「新しい生活様式」への対応として、観光関連事業者への支援や中小企業のオンラインでの販路開拓への支援策等に6億89万3千円の予算が盛り込まれています。

かかりつけ医での診療・検査体制を整備へ

補正予算【第9号】では、身近な医療機関で新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの両方を診療・検査できる体制の整備をはじめ、重点医療機関の病床確保に対する助成費の増額、抗原検査費用の増額、生活福祉資金の特例貸し付け事業への補助金の増額など、414億7,054万5千円が計上されています。

新型コロナに関しては、これまで保健所に設置されている「帰国者・接触者相談センター」で対応していましたが、これからは発熱などを訴え、新型コロナかインフルエンザかの判断が難しい患者が増えると予想されるため、地域のかかりつけ医を窓口とすることで、より多くの患者に対応して検査できるようになります。なお、両方を診ることができる医療機関は、県が地域の医師会と協議の上指定し、随時発表しています。

季節性インフルエンザの流行期に備えるため高齢者のインフルワクチンを無償化へ

補正予算【第8号】では、新型コロナウイルスに感染すると重症化するリスクの高い高齢者などを対象に、インフルエンザのワクチン接種を無償化するために、21億3,961万1千円の予算計上を決めました。

無償化の対象となるのは65歳以上の高齢者と60歳～64歳の基礎疾患のある方などです。インフルエンザの流行がピークとなる1月～2月頃に備えるため、期間は10月～12月としています。

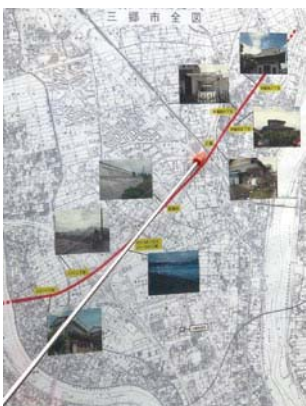


視察

突風被害状況を大野知事が

令和2年7月豪雨(三郷市での突風)で被災した三郷市に大野知事が視察にみえました。

住宅等の被害は一部損壊が108件、田畑等の被害は22棟に上り、改めて自然の驚異を思い知らされました。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。



※農業施設の復旧に対する補正予算が計上され可決されました。

埼玉県では、平成25年の越谷市・松伏町でおきた竜巻被害を受け、平成26年に「埼玉県・市町村被災者安心支援制度」を創設。平成29年の台風21号、令和元年の東日本台風の被害を受け、令和2年に「埼玉県・市町村被災者安心支援制度」を見直し、「半壊特別給付金」を創設しております。

県議会6月定例会一般質問

コミュニティ・スクールの推進について



今号では、市議会議員時代から取り組んでまいりました、コミュニティ・スクールの推進について、6月定例会で質問させていただきましたので、その内容(概要)を報告します。ご意見やご感想などをいただければ幸いです。

(1)小中学校の現状について

県内においてコミュニティ・スクールを設置した学校は、令和元年5月1日現在で36市町434校ということですが、未だ取り組まれていない市町村も見受けられます。全県的に取り組むという姿勢であるのならば、各市町村にモデル校を設置して取り組んでいくことも必要ではないかと提言いたしました。

県は現在、幹部職員が未設置の市町村を直接訪問し、コミュニティ・スクールの趣旨や効果的な取り組みについて丁寧に説明し、モデル校の設置も含めて提案するなど、導入に向けた働きかけを行っていきとの回答がありました。今後の見通しについては、第3期埼玉県教育振興基本計画の目標である650校を早期に達成できるよう、積極的に働きかけていきたいとの答弁でした。

(2)中学校区単位での取り組みの推進について

第3期埼玉県教育振興基本計画の中では、各学校に学校運営協議会を設置することを目標としており、その先の進め方については言及されておりません。

三郷市や山口県など先進自治体のように大きな枠組みで地域を巻き込んでいくことは理想ですが、まずは中学校区単位で、各校の学校運営協議会が一同に会して協議できる場を作ることが重要と考えています。

そこで、県としてどういうビジョンを持って今後取り組んでいくのか、また中学校区単位でのコミュニティ・スクールの設置についてどう捉えているのか見解を伺いました。

県は今後のビジョンについて、最終的には全ての小・中学校にコミュニティ・スクールが設置され、小・中連携も含め、地域一体となって子どもたちを育む仕組みとなるよう取り組みたいとのことでした。

また、中学校区単位のコミュニティ・スクールについては、義務教育9年間を見通した教育の推進に繋がる良い取り組みの一つだとの考えを示した上で、様々な研修会を通して、効果的な取り組みとして県内に広めていきたいとの回答がありました。

(3)高等学校の現状と課題及び今後の取り組みについて

高等学校の学校運営協議会について、三郷市においても県立学校が4校ありますが、4校全てが災害時の指定避難場所となっております。地域との関わりは重要かと思いますが、正直なところあまりないのが現実です。小中学校とは考え方や形も少々違ってくるものと思いますが、中高の連携や地域との繋がりという観点では必要ではないかと感じております。今後の県立高等学校の学校運営協議会の設置に対してどのように考えているのか質問をしました。

県は現在設置している3校ではそれぞれの地域資源を活かして地域と一体となった取り組みを進めているとし、課題としては地域人材の確保などが挙げられているとのことでした。また、私が指摘したとおり、今後、県立高等学校が地域との連携を深めていくことは重要であるとの認識を示した上で、県立高等学校を対象とした研修会を行い、設置に向けて取り組んでいきたいとの回答がありました。

これからAI・IoT・ビッグデータ・ロボティクスを活用するソサエティ5.0の時代が到来します。この度の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、国のGI GAスクール構想も前倒して行うこととなり、低年齢の児童のインターネットの活用も進んでいくことと思われます。インターネットやスマートフォンの普及による依存症の増加や、周りからは見えづらいいじめの発生など、学校が抱える課題や子供たちを取り巻く環境が複雑化・多様化しております。私は、これらの課題に教員だけで対応することが質的にも量的にも今以上に難しくなっていくと感じています。

コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を導入した学校のことであり、学校と地域住民などが力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる、地域とともにある学校づくりへと転換を図るための有効な仕組みです。国も子どもたちを社会全体で支えていこうという方向性を打ち出し、令和4年度までに全ての公立学校に学校運営協議会の導入を目指しています。今後も県の取り組みをしっかりと後押ししながら、必要な助言・提言をしてまいります。



今年度の所属委員会

警察危機管理防災委員
公社事業対策特別委員／図書室委員

一般質問全項目(令和2年6月23日)

- 新型コロナウイルス感染症対策について……(知事)
 - 有事の際の県と市町村との情報共有・連携について
 - 避難所の運営に関する指針(新型コロナウイルス感染症に対応したガイドライン)について
- 障がい者が安心して暮らせる入所施設及びグループホームの整備について……(福祉部長)
 - 今後の入所施設の整備計画について
 - グループホームの支援体制の確保について
 - グループホームで従事する職員の研修の在り方及び職員配置加算について
 - 身体障がい者対応のグループホームの整備について
 - 地域生活支援拠点等と基幹相談支援センターの一体整備について
- コミュニティ・スクールの推進について……(教育長)
 - 小中学校の現状について
 - 中学校区単位での取組の推進について
 - 高等学校の現状と課題及び今後の取組について

三郷料金所スマートICフル化の事業化が決定いたしました

現在、三郷料金所スマートICは、水戸方面限定のハーフICとして供用されておりますが、フル化の事業化が決定したことにより、東京方面への乗り降りもできるようになります。(令和6年度末の供用予定)

(仮称)三郷流山橋が令和5年度の完成に向け工事が進められておりますが、併せてフルICが実現することにより、市内の渋滞緩和、企業誘致促進など地域活性化につながる事が期待されます。



これからAI・IoT・ビッグデータ・ロボティクスを活用するソサエティ5.0の時代が到来します。この度の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、国のGI GAスクール構想も前倒して行うこととなり、低年齢の児童のインターネットの活用も進んでいくことと思われます。インターネットやスマートフォンの普及による依存症の増加や、周りからは見えづらいいじめの発生など、学校が抱える課題や子供たちを取り巻く環境が複雑化・多様化しております。私は、これらの課題に教員だけで対応することが質的にも量的にも今以上に難しくなっていくと感じています。